

財団法人 日本サッカー協会

平成 19 年度 第 6 回理事会

協議事項

1. JFA ロングパイル人工芝ピッチ公認の件
<p>1. 公認申請者：伊勢市（三重県） 施設名：(仮称)伊勢市朝熊山麓公園芝生球技広場A(三重県) 施設所有者：伊勢市長 森下隆生 ロングパイル人工芝：ハイブリッドターフ（XP-62）/SRIハイブリッド(株) 公認日：平成19年10月18日～平成22年10月17日 公認番号：第60号</p> <p><特記事項></p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ ハイブリッドターフ（XP-62）は製品検査（ラボテスト）を完了し、JFA ロングパイル人工芝基準を満たしている。 ◆ 公認規程に基づき2回の検査（フィールドテスト）を実施し、JFA ロングパイル人工芝基準を満たしている。 <p>2. 公認申請者：伊勢市（三重県） 施設名：(仮称)伊勢市朝熊山麓公園芝生球技広場B(三重県) 施設所有者：伊勢市長 森下隆生 ロングパイル人工芝：ドリームターフ（PT2065）/積水樹脂(株) 公認日：平成19年10月18日～平成22年10月17日 公認番号：第61号</p> <p><特記事項></p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ ドリームターフ（PT2065）は製品検査（ラボテスト）を完了し、JFA ロングパイル人工芝基準を満たしている。 ◆ 公認規程に基づき2回の検査（フィールドテスト）を実施し、JFA ロングパイル人工芝基準を満たしている。
2. 日本サッカー協会認定 選手エージェント試験の件
<p>実施日：2007年9月27日（木） 受験者数：8名 合格者数：4名 合格者名：野村 豊幸（のむら かずゆき） 1970年3月20日生まれ（37歳）</p>

宮本 行宏 (みやもと ゆきひろ) 1962年2月27日生まれ (45歳)
 吉見 潤 (よしみ じゅん) 1966年1月29日生まれ (41歳)
 松平 浩一 (まつだいら こういち) 1974年9月16日生まれ (33歳)

- ※ 筆記試験はF I F Aより出題された15問、国内問題5問の合計20問で実施。
- ※ 合格者にはJ F Aが指定した職業賠償責任保険への加入および職業行動規範誓約書の提出が義務付けられる。
- ※ この結果、J F A認定選手エージェントは25名となる。

3. サッカー審判指導者資格並びに指導者及び審判資格認定手続きの見直しの件

※協議資料No. 1 ①②

サッカー審判指導者資格並びに指導者及び審判資格認定手続きについて見直しをする。

4. 技術委員 増員の件

以下の者を技術委員として増員する。

吉田 靖 (よしだ やすし) 前U-20日本代表監督 1960年8月9日生まれ
 これまでオブザーバーとして技術委員会へ出席してきたが、今後は委員として「ユース育成」を担当する。

5. 2種3種リーグ改革支援制度の件

※協議資料No. 2

2種3種リーグ改革支援制度の募集に申請のあった地域および都道府県に対して、審査し、別紙のとおり支援金を支払う。

6. 地域GKキャンプ 開催補助金の件

地域で開催されているGKキャンプの更なる充実を図るため、下記の要旨により実施している地域に対して補助金を支給する。

■ 背景・目的

2001年より開始したJFAゴールキーパーキャンプは数多くの代表選手を排出し、今やその活動はなくてはならないものになっている。ゴールキーパーキャンプの役割は、選手の強化、育成に留まらず、選手発掘、情報発信、ゴールキーパーコーチ研修と多くの側面を兼ね備えてい

る。

現在、JFA が行うゴールキーパーキャンプが地域に好影響し、併せてゴールキーパープロジェクトや地域関係者の努力もあり、ゴールキーパーの育成に対しての取り組みが着実に広がっている。代表的なものとして地域単位でのゴールキーパーキャンプの実施が挙げられる。

今後は更にゴールキーパーの発掘、育成に力を注いでいかなければならず、先ずできることとして、現在行われている地域ゴールキーパーキャンプの開催回数を増やすことや参加選手を増やしていくことで急務であり、そのために支援は必要と考える。

■ 基本的な考え方

- ・ 地域で実施している地域ゴールキーパーキャンプに対し開催補助金を支払う。
- ・ 開催補助金は、1地域30万円とする。（総額 9地域 270万円／平成19年度予算計上済）
- ・ 実施しない地域には支払わない。
- ・ 補助金の使途は、グラウンド利用料、宿泊費、交通費等直接実施に関わる経費とする。
- ・ 実施場所、期間、開催規模はナショナルトレセン GK コーチが主体となり、地域のスタッフ等と共に企画するものとし、地域の独自性を配慮する。併せてナショナルトレセン GK コーチはキャンプ実施、予算管理、実算管理に関わる。

■ 補助の継続について

ゴールキーパーの発掘、育成はもとより指導者のスキルアップは選手育成において非常に重要なウェイトを占める。よって継続性のある支援を検討するが、JFA 予算の変動により継続的に補助できない場合も想定し、地域単独での継続開催を想定しながら進めていくものとする。

7. キャプテンズ・ミッション（CHQ）関連事項の件

I. 平成20年度以降の各種支援制度等について（協議事項）

1. 現状の評価／今後の方向性

※協議資料No.3

2. 補助金（CHQ関連） 計画一覧

※協議資料No.4

II. 平成20～22年度「JFAメンバーシップ制度基本還元金」増額について（協議事項）

（平成19年度まで）

（平成20～22年度まで）

組織基盤（事務局） 50万円（一律） → 250万円（一律）

※協議資料No.5

Ⅲ. CHQ都道府県協会ミーティング(47都道府県訪問会議)について(報告事項)

1. ミーティング 報告

※協議資料No. 6

2. 各都道府県出席者人数

47都道府県合計：598名、1協会平均数：12名

※協議資料No. 7

Ⅳ. CHQ業務総括/業務目標について(報告事項)

1. 平成19年度上期 業務総括

※協議資料No. 8

2. 平成19年度下期 業務目標

※協議資料No. 9

8. 感謝状贈呈の件

第62回国民体育大会の開催団体に対して、感謝状を贈呈したい。

開催団体

秋田県、にかほ市、秋田市、由利本荘市、(社)秋田県サッカー協会